

複雑性をひも解く関係性

先日、スイスのジュネーブにある世界経済フォーラムの本部を訪問する機会を得た。世界経済フォーラムは、世界の財界人や学会関係者など毎年 2,500 名以上が参加し、世界経済に関する様々な問題を討議する、通称ダボス会議の主催者である。1971 年に非営利団体として欧州経営者フォーラムとしてスタートしたが、1987 年に世界経済フォーラムと名称を変更し、官民連携を通じて世界の状況を改善するための国際機関として性格を変えた。

世界経済フォーラムには現在約 500 名が在籍し、日々多様なグローバル課題に対する分析を行っている。研究組織としては主に地域カテゴリーで 10 チーム、産業カテゴリーで 21 チームに分かれており、地域や産業の枠を超えた横断テーマの研究チームも含め、それぞれが相互関係性を重視しつつ、チームとして活動している。

2015 年の年次総会は 1 月に開催された。140 カ国以上から、1,500 名のビジネスリーダーを含め総勢 2,500 名が参加し、280 以上のセッションが開催された。その中で世界経済フォーラムは新しい試みを発表した。トランスフォーメーションマップである。

トランスフォーメーションマップとは、世界経済フォーラムで議論あるいは研究されている様々な問題の関係性について特殊なソフトウェアを使って表現するプラットフォームの呼称である。産業や経済の流れをある意味で“ポンチ絵”化したものである。世界経済フォーラムでは多様な論

点での議論を様々な地域で行っているが、そうした活動を通じて得た相互関係性の深いそれぞれの知見をつなげる必要があるのではないかという問題意識から、このマッピングのプロジェクトが始まった。

マッピングにおいては大きく 3 本の軸がある。一つは経済、一つは世界で観察される様々な問題（例えば、気候変動や腐敗問題など）で、最後の一つは産業である。産業としては 21 業種を対象としている。これら 3 本の軸をベースに 140 のトピックスを抽出し、それぞれについてのマッピングを進めている。

具体的なマッピングの方法であるが、まず 1 つのトピックスを選びそれに関して 10 個ほどの重要性の高いキーワードを関連付けている。キーワードの選定にあたっては、フォーラムを構成するテーマ別の有識者・関係者からなるコミュニティのうち、そのトピックスに最も関係の深いコミュニティとその他関連テーマのコミュニティの関係者を含めて協議の上決定しているもようである。一方で、年次総会を含め、各地域会議等で蓄積された会議の議事録、研究レポート、各種統計データなどが逐次データベース化されている。現在は 2014 年の 1 年分のみであるが、それらのデータとキーワードからソフトウェアで関係性が検出され、マッピングが形成されていく仕組みである。

このマッピングによって、従来それほど関係性を重要視していなかった問題群が浮き彫りになっ

たり、重要だと思っていた問題が実はそれほど
もなかったりなど、議論の見える化が実現される
とともに、問題の軽重、濃淡が理解されるきっか
け作りともなっている。

ただし、この取り組みはまだ始まったばかりで、
会議や研究レポートのデータベース化は前述のと
おり 2014 年の 1 年分にとどまっており、データ
ベースとしてはまだまだ十分とは言いきれない。
また、このデータベースそのものが、各会議にお
ける参加者の発言がベースにあり、網羅性が確保
されているかといえば、必ずしもそうとは言えな
い。偏りが生じている可能性も否定できない。ま
たソフトウェアの改善も必要であり、本格的な実
用化にはまだまだ遠い道のりというのが実情だ。

発展途上の取り組みではあるものの、このマッ
ピングは、各経済問題を多面的に関係づける画期的
な試みである。私たちは各経済問題をオーソ
ドックスなアプローチで考えてしまう傾向があ
る。つまり、それぞれの問題を個別で捉えがちだ。
しかし、現実の経済は複雑である。思いもよら
ない関係が存在したり、考慮すべき前提が従来と異
なっていたりなど、その例は枚挙にいとまがない。

様々な経済問題において、早い時期から関係性
が重要とされていた分野の一つが金融である。金
融システムはグローバルでつながっており、各国
とも他国で起こった金融問題は大きな影響
を受ける。関係性に非常に敏感な分野である。

こうした金融分野において新たな関係性が 1
つ生まれつつある。中国が主導するアジアイン
フラ投資銀行（A I I B : Asian Infrastructure
Investment Bank）設立の動きである。2013 年
10 月に中国が、アジア地域におけるインフラ投
資を担う銀行との位置づけで提唱、2015 年内の
設立を目指すとしている。中国の提唱後、中国主

導を警戒する動きやガバナンスを問題視する声も
聞かれ、いわゆる西側諸国の参加が危ぶまれてい
たところ、2015 年 3 月半ばに、イギリスが A I
I B への参加を表明したことで情勢は急変、フラ
ンスなどいくつかの E U 諸国が続いて参加を表明
した。結果として、3 月 31 日を申請の締め切り
期限とした創設メンバーとして参加を表明した
国・地域は 50 カ国程度にまで膨らんだ。さらに、
世界銀行やアジア開発銀行（A D B）を主導し、
A I I B 設立に不快感を表明していた米国も、A
I I B と世界銀行や A D B との共同出資事業を提
案したと報じられている。この大きな関係性の
変化のキーワードとしては“巨額なアジアのイン
フラ市場”の他に、“監視”、“パラダイムシフトの
可能性”などが挙げられるのかもしれない。

金融における関係性は今後もますます複雑化す
ることになるとみられる。金融政策は今や先進諸
国の経済の“命綱”となっている。舵取りを一步
間違えると経済の基盤を揺るがしかねない。各国が
金融緩和政策を取る中、いち早く出口戦略に漕ぎ
着けた米国、出口が全く見えない日本。新しい金
融ツールを開発しつつある新興国。また新たな関
係性が生まれつつある。

[著者]

引頭 麻実 (いんどう まみ)



常務執行役員
専門は、企業経営全般、
会計・監査、資本市場、産業分析